1-1-d 本文草稿

タイトル：診療医が画像検査で必要とする情報は何か？

１．はじめに

歯科インプラント埋入時に診療医は画像検査を行うが、その際の画像検査にどのような情報を求めているのかを明らかにしたかった。ただしこのいわゆる「評価項目」は医学論文で討議されるレベルでもないと考え、これまでの歯科インプラントに関するガイドラインから評価項目が明らかになっているものをピックアップすることとした。

２．方法

１）検索

Pubmed および Win-SPIRS を用いて、"dental implant"かつ PT=guideline として最近５年間を検索すると５件がヒットした。

２）結果

顎骨の頭尾方向的な評価項目として「歯槽頂部の吸収の程度・高さ」があり、CT からの MPR 画像にての診断が必要であった。内外側的な評価項目として「顎骨の幅径」があり、これらの測定は CT を用いれば正確に行えるとされていた。この他、皮質骨の厚さ（歯槽頂部での頭尾的距離）が計測項目として挙げられていた。また、Lekholm と Zarb の分類、骨質、CT 値からの骨密度、骨の構造なども評価項目として挙げられていた。その他、重要な解剖学的構造である神経および血管の位置（下顎管の位置)、根尖の位置、鼻腔底や上顎洞底の位置を知る必要があるとされていた。

３．まとめ

ガイドラインに掲載され、多くの論文での評価対象にもなっていることから、上記の項目が画像検査に要求されていることに異論はなかろう。